

地域おこし協力隊とは、総務省が平成21年度から取り組んでいる制度で、都市部の意欲ある人材が地方へ移住（最長3年）し、地域力の維持・強化を目的とした支援活動を行うものです。

笠間で学び笠間で育つ



ふくしま たくほ
福島 拓歩 隊員 23歳 兵庫県から移住



作業風景



9月の栗の様子

協力隊の日々の活動をSNSで発信中！



フェイスブック



インスタグラム

問 企業誘致・移住推進課（内線595）

5月から笠間市地域おこし協力隊として活動している福島 拓歩です。千葉県袖ヶ浦市出身で、将来は笠間市で就農し、栗をはじめとした農業経営を目指しています。現在は笠間市農業公社で栗栽培を学びながら、笠間市の農業や地域について理解を深めています。私は北海道の大学で農業について学びました。その中で野菜の栽培に魅力を感じ、農業経営にも興味を持つようになりました。また、在学中には近隣の農家さんのお手伝いや短期研修に参加し、実際の農業の現場を経験しました。作物を育てるには多くの苦労がありま

すが、自分が育てた作物が立派に育ち、収穫を迎えたときの喜びは何ものにも代えがたく、農業の面白さややりがいを感じました。この経験を通して、「自分自身で農業経営に挑戦したい」という思いが一層強くなり、農家を志すようになりました。就農を目指す中でさまざまな地域について調べた中で、全国有数の栗の産地で農業が盛んな地域であり、新規就農者への農業関連機関の支援体制が充実している笠間市に魅力を感じ、笠間市で就農を目指すことを決めました。

現在は農業公社での栗栽培のほかに、農業関係機関や農家さんを訪問しながら、野菜の栽培を含めた農業技術や農業経営について学んでいます。実際に農業を営む方々のお話を伺うことで、栽培技術だけではなく、販売や経営、地域との関わり方など、多くのことを学ばせていただいています。

着任以来、多くの方々との出会いや農業現場での経験を通して、笠間市の魅力や農業の奥深さを日々実感しています。これからも地域の皆さんとのつながりを大切にしながら経験を積み、一日でも早く地域に貢献できる農業者を目指して努力していきます。これからもよろしくお願いします。